田草庵先生に学ぶ会

「姪盛小齋記」を読む　令和七年二月～『池田草庵先生著作集』P240～241

二月一日

（担当　西村　宮崎　守本）

姪盛小齋記（一）

草庵子臥レ病浹旬、日惟默々擁レ衾、想二半生之虚度一、悲二志業無レ成、感觸憂鬱、意思特悪、

読み

姪盛小齋記

草庵子、病に臥すこと浹旬（そうじゅん）、日惟（ただ）默々として衾を擁す、半生の虚度を想い、志業の成なすこと無しを悲しむ、感触憂鬱、意思特に悪し、

訳

汚れのない若い盛之助のこと

草庵私は、病に臥すこと、十日余り、日がなただ黙って布団をかぶっている。これまでの空しく過ぎたことを思い、志していたことへの成果があげられないのを悲しみ、心に感じるのは憂鬱、思いは特に悪い。

言葉

姪＝テツ　めい

齋＝祭りの前に酒や肉を断ち、決まったところにこもって心を一つにして準備する。心身を清浄に保ち、けがれを避けて慎むこと。

子＝小さい者や道具の名につける接尾語　人、者

浹旬＝ソウジュン　十日間、一旬

惟＝タダ　衾＝キン　ふすまかけぶとん。

虚度＝キョド　なすこともなくむなしく歳月を過ごす

半生＝ハンセイ　人生のなかば　稍＝やや

志業＝学業や事業に志すこと

姪盛時來相見因言、比者小齋新成、農務稍閑、可二以讀一書寫レ字、而齋未レ有二扁額一、有二一言以箴一レ之、

読み

姪盛時に來たりて、相見て因りて言う、比者小齋新成、農務の稍閑に以って書を読み字を写すべし、而かれども齋には未だ扁額有らず、一言以って之を箴する有りか

訳

姪の盛之助が時おり来て見て言う、この者は小さいが心がきれいでよくできた者だ。農業が少し閑になって、書物を読み、文字を写している。しかし、書斎にはまだ扁額はない。一言以て戒めることばないか、

言葉

相見＝ショウケン　相まみえる　対面する

因＝よりて

齋＝「身心をつつしみ清浄を保つこと。ものいみ。斎戒。

新成＝新しくできあがった者

箴＝シン　いましーめ　いましめ。

草庵子乃喟然太息曰、噫嘻有レ是哉、莫レ有二復若一予之今日之追悔一而已矣、

読み

草庵子、乃ち喟然（きぜん）とし太息（たいそく）して曰く、噫嘻（ああ）是れ有るかな、復た予の今日の追悔（ついかい）のごとく有ること莫しのみ、

訳

草庵私はそれで、大きなため息をついて言う、ああこのことだ、私のように今日になって後悔するようなことになってほしくないのだ。。

言葉

乃＝すなわち

喟然＝キゼン　［喟焉キエン・喟爾キジ］嘆息をつくさま。

太息＝タイソク　〈大息〉ため息。ため息をつく。

噫嘻＝ああ　嘆息の声

追悔＝ツイカイ　跡戸から悔やむ

而已矣＝ノミ